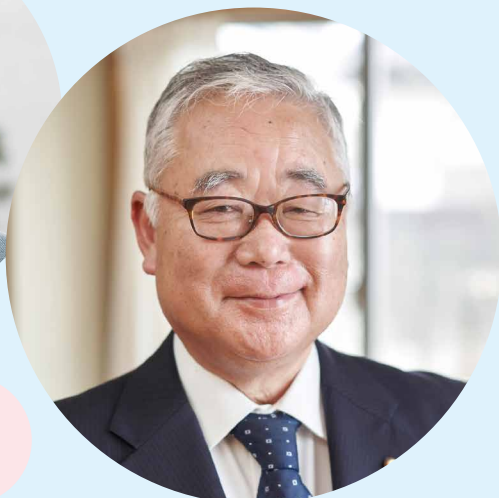


HOGOSHI recruiting guide

# 保護司という ボランティア

法務省保護局  
全国保護司連盟



## Contents

Interview.1  
2人の子を持つ主婦

Interview.2  
社会福祉法人職員

Interview.3  
元高校教師

Interview.4  
様々な立場の保護司

Column  
更生保護サポートセンター訪問



地域に  
恩返しが  
したくて

田中 陽子さん [茨城県龍ヶ崎地区保護司会]

memo

保護司歴6年 主婦  
2人の兄妹の母でもある。

## 保護司になったきっかけは？

地域で障がい児に関わるボランティアをしていたことがきっかけで、保護司になってみない？と声をかけていただきました。先輩保護司から保護司活動について説明を受けたのですが、**犯罪や非行をした人と関わるボランティア**だと聞いて、子育て中にそういった人たちと関わるなんて私にはできない…と、最初は断ることしか考えていませんでした(笑)

でも、これまで子育てをしながら、たくさん地域の方々に支えられてきたので、地域のために何か恩返しができるのではないかなと思うようになったんです。また、「**更生保護サポートセンター**」(※)があって、保護観察を受けている人と自宅で面接し

なくてよいというのも決め手になり、お引き受けすることにしました。

※「**更生保護サポートセンター**」地域における更生保護活動の拠点であり、更生保護に関する情報を発信する場所。サポートセンターとも言います。詳しくは、6ページ。

## ご家族からの反対はなかったですか？

夫や息子は、地域のよく知っている方が保護司をされていることを知っていたので、「あの方がやっているなら。」と賛成してくれました。娘は「犯罪をした人にお母さんが何かされてしまうことはないの。」と、とても心配していたのですが、夫や息子が反対しなかったので、しづしづ納得してくれました。



### 田中さんの娘さんの声

family's voice

お母さんが保護司の活動から帰ってきたある日、「担当している人の仕事が決まったんだ」と自分のことのように嬉しそうに話す姿を見て、私も嬉しくなりました。罪を犯した人の立ち直りを支え、地域のために活動しているお母さんのことを尊敬しています。

## 田中さんのこれまでの活動を教えてください

私が担当した少年のことをお話しします。

初めて面接をした時、相手の少年は目も合わせず下を向いたまま。5分も会話が続き、どうい話をすれば良いのか困ってしまったのを覚えています。面接の経験を重ねるうちに心が通じるようになり、一方通行だった会話が嘘のように、たくさん話をしてくれるようになりました。

振り返ると大変なこともありましたが、彼の小さな変化が私の喜びでした。サポートセンターで面接していたので、先輩保護司が近くにいる、悩むことがあればすぐに相談できたのも心強かったです。私が所属する保護司会(※)では、新任保護司のための勉強会が行われていたので、それに参加して、先輩保護司からアドバイスをいただくこともありました。

先輩保護司からのサポートのおかげもあり、彼の保護観察は無事に終了しました。会わなくなってしばらく経ってから、結婚して父になり、ある建物の工事に携わったと彼から連絡がありました。それからというもの、遠くにその建物を見かけると、胸がジーンと熱くなります。

また、時には、1つの事件を複数の保護司で担当することもあります。私は、警察官OBの保護司さんと2人で事件担当をすることがありましたが、その保護司さんが色々な角度から質問をされていて、非常に勉強になりました。初めて担当するときなど、1人で心細いときに一緒に担当する方がいると安心しますね。

処遇活動以外では、地域のお祭りで更生保護をPRしたり、学校との連携活動を行ったりしています。

※「保護司会」保護司になると、それぞれの地域の保護司会に所属し、組織単位で活動することもあります。

**保護司さんの1か月**

**1週目**  
保護観察を受けている人とサポートセンターで面接します。

**2週目**  
保護司会の広報委員会に所属しているので、広報誌の制作をしています。

**3週目**  
サポートセンターで先輩保護司に処遇の悩みを相談します。

**4週目**  
保護司会の定例会議に参加します。

## 保護司活動を経験して・・・

地域に恩返しをしたいという思いでスタートした保護司活動ですが、罪を犯してしまったけれど、もう一度やり直したいと思った人のお手伝いができることに日々喜びを感じています。

何の専門知識もない主婦ですので、活動を始める際はとても不安でしたが、子育ての経験を生かして、時には先輩保護司に相談しながら、活動を続けていきたいと思っています。





古蘭 功詞郎さん [鹿児島県鹿児島地区保護司会]

memo

保護司歴6年 社会福祉法人職員  
知的障害者サッカーチームの  
コーチも務める。

## 保護司になったきっかけは？

父が保護司だったので、罪を犯した人の立ち直りを地域で支える姿を間近で見してきました。

社会福祉法人の職員として、ある学校の卒業式に来賓として出席した時、年配の教師の方が非行を繰り返した少年の名前を挙げ、「やっと卒業する」と話していたんです。保護観察になるようなすぐ手のかかる子だったみたいで、その生徒がやっと卒業してくれる、これでやっと学校が平和になるというような一言が、私の中ではとても衝撃的で、違和感を覚えました。

そのとき、少年たちの気持ちや考え方は、自分のような若者の方が分かるかもしれないと思ったんです。父にその話をしたところ、保護司を勧められました。



## 仕事と両立するのは大変？

私は、社会福祉法人で働く傍ら、日中の仕事の空き時間や、勤務後の時間を使って、面接などの保護司活動をしています。

直前に予定が入ると、仕事との調整が難しいこともあります。職場や家族からの理解もあるので、仕事と保護司活動を両立できています。

## 若い立場から見た保護司とは？

若い方がいいとか、年輩の方がいいとかはあまり考えていません。温故知新で、今まで大切にしてきたものを守りながらも、時代にあった保護司活動を模索するべきではないでしょうか。若い立場として、若いからこそ考えられることは、できる限り発信していこうと思っています。

## 保護司になるか迷っている人へ

とにかく、保護司活動をやってみてください！私は、24歳の時に一歩を踏み出しました。あっという間の6年間でしたが、その間には、担当していた少年が就職して県外に旅立ち、保護司としての役目を終え、兄として、友人として、嬉しさと寂しさがこみ上げたこともありました。

今でもまだまだ若造ですが、保護司活動を経験して、誰かの役に立っているという実感があります。これからも、罪を犯してしまった人に、地域で兄弟や友人のように接しながら、立ち直りを支援したいと思っています。

リモートで  
お話を聞きました

